

ヤクルトグループのマテリアリティ

気候変動



ヤクルトのアプローチ

人の経済活動による気候変動の問題は、ヤクルトグループの事業を継続するうえで、重要な課題と認識しています。脱炭素社会の実現が求められる中において、ヤクルトグループとして定量目標を定め、さらなる省エネ推進や再生可能エネルギーの積極的導入等を行うことで、温室効果ガス排出量を削減します。

温室効果ガス排出量削減に、積極的に取り組んでいるよ！



貢献するSDGs

13

気候変動に具体的な対策を



17

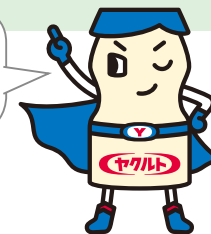
パートナーシップで目標を達成しよう



2021年3月、 「ヤクルトグループ環境ビジョン」を 決めました



人と地球が共生していくための
ビジョンを策定したよ。



**People and
Planet as One**
ヤクルトグループ環境ビジョン

CO₂削減、 本社工場・ボトリング会社、 販売会社でも進めています

本社工場やボトリング会社では、照明のLED化、設備や生産システムの効率化、太陽光発電の活用等でCO₂削減を推進しています。また、製品貯蔵タンク用冷却水の供給ポンプを間欠的な運転方法に変更することにより、電力使用量を削減し、CO₂を削減しました。

販売会社のヤクルトレディが使うお届け車両も、CO₂排出量削減を目的とした電気自動車(コムス)を導入しています。



岡山和気工場の
ソーラーパネル



電気自動車(コムス)



ヤクルトグループのマテリアリティ

プラスチック容器包装



ヤクルトのアプローチ

ヤクルトグループでは、プラスチックごみによる環境汚染や資源のリサイクルに関する社会問題に対し、環境配慮型容器包装の基礎技術の確立を目指しています。資源循環しやすい素材への転換を進めながら、プラスチック製容器包装による環境負荷の低減を図ります。

環境に配慮した容器包装素材への転換に積極的に取り組んでいるよ。



貢献するSDGs

12

つくる責任
つかう責任

17

パートナーシップで
目標を達成しよう

容器包装による環境負荷の低減に取り組みます

ヤクルトグループは、2019年1月に「プラスチック資源循環アクション宣言」を発表しました。資源循環できる容器包装への転換や容器包装の素材変更による環境負荷低減等の具体的な取り組みを進めています。

バイオマス素材を活用します



2020年10月に「ヤクルトのはっ酵豆乳」において、バイオマスプラスチックを使用したストローおよびマルチシュリンクフィルムへの切り替えを行いました。ヨーロッパヤクルトでも、プラスチック包装からカートン包装への切り替えを進めるなど、再生可能な生物由来の有機性資源であるバイオマス素材を活用し、さらなる環境への配慮を推進していきます。

カートン包装の使用範囲拡大



プラスチック資源循環アクション宣言(概要)

●ヤクルトグループは、プラスチック製容器包装の資源循環を推進する取り組みを行います。

—2025年目標—

環境配慮型容器包装の基礎技術を確認したうえで、資源循環しやすい素材(バイオマス素材、リサイクル素材、生物分解性素材等)への転換に着手します。

—2030年目標—

循環資源市場や環境インフラ等の外部環境の整備状況と連動しながら、資源循環しやすい素材へ最大限の転換を図ります。

●容器包装へのプラスチック使用量の削減や、生産工程で使用するプラスチック製梱包材の再使用等の取り組みについて、これまで以上に推進し、資源循環に向けた取り組みを積極的に進めていきます。

バイオマスプラスチックを使用していることをパッケージに記載



この商品のストローは、植物由来の原料を25%以上使用した、環境にやさしいバイオマスプラスチックでできています。

BD²⁵
バイオマスプラ
No.632
対象:ストロー

ヤクルトグループのマテリアリティ

水



ヤクルトのアプローチ

水は、地球上の限りある資源です。昨今、水需給の不均衡や水災害の発生等、水に関わる問題が地球規模で問題になっています。これは水を原材料とするヤクルトグループの事業活動にとって重要な課題です。ヤクルトグループでは、定量目標を定め、水使用量(原単位)の削減に向けて取り組むとともに、生産拠点の水リスクに対応する管理計画の策定を進め、水資源の保全および持続的利用を推進します。

水資源を守っていくよ!

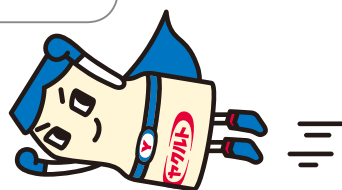
貢献するSDGs

6

安全な水とトイレを世界中に

17

パートナーシップで目標を達成しよう



水の“リスク管理”を進めています



持続可能な水使用のためには、各工場が水需給の見通し、水災害発生の可能性、公衆衛生、生態系への影響等の水リスクについて認識し、管理していく必要があります。そのため2017年から外部機関に委託し、WRI Aqueduct*等を用いて水ストレスレベル(水需給に余裕がない状態の程度)の評価を行っています。

※ WRI Aqueduct: 国際環境 NGO の世界資源研究所(WRI)が開発した水リスク評価ツール

生産拠点における水リスク評価結果(2020年度)

	拠点数	極めて高い	高い
国内	12	1	3
海外	27	9	7
サプライヤー拠点	372	35	77
合計	412	45	87

WRI Aqueduct水リスク評価結果(Future Projections/2040/Pessimistic)

ヤクルトの工場では、積極的に水を再利用

- 日本・福島工場: 製品の生産に使用する純水の製造過程で発生した濃縮水を製品や機械の冷却水として再利用
- メキシコ・イスタパルカ工場: 排水処理場の処理水を工場の緑地へ散水
- タイ・バンコク工場/アユタヤ工場: 処理水をマイクロフィルターによって浄化し、トイレ用水やパレット・輸送車・排水設備の洗浄、植木や芝の散水に使用
- 中国・天津工場: 排水オンラインモニタリングのシステムを、天津市生態環境局とネットワーキングし、汚水を排出

地下水のくみ上げ量の削減や、地域の環境に配慮して対策しているよ。



排水処理水を緑地への散水に利用
(メキシコヤクルト)



処理水を芝生の散水に使用
(タイヤクルト)

ヤクルトグループのマテリアリティ

イノベーション



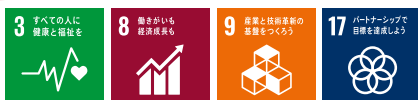
ヤクルトのアプローチ

ヤクルトグループが持続的成長を続けるために、これまで培ってきた生命科学の追究を基盤とした商品開発のさらなる推進や、新たな価値を提供するサービスの創出が必要不可欠だと認識しています。ステークホルダーの声を聴きながら、社会課題の解決に貢献するイノベーションを生み出し、ヘルスケアカンパニーへの進化につなげていきます。

新しい価値を提供していくよ!



貢献するSDGs



人の健康に有用な菌の研究を進めています

中央研究所は、予防医学の見地からの腸内フローラ研究と、人の健康の維持増進に役立つプロバイオティクス※の研究を活動の柱としています。日本および世界各地の人々の腸内細菌叢の違いや、疾病と腸内細菌叢の関わりなどを解明し、人々の健康づくりに役立てる研究を進めています。

その研究の一つとして、乳酸菌 シロタ株の継続飲用が一時的な精神的ストレスがかかる状況下での「ストレス緩和」「睡眠の質の向上」の機能を有することを確認し、1本(100ml)に乳酸菌 シロタ株を1,000億個含む乳製品乳酸菌飲料[Yakult(ヤクルト)1000]の商品化につながりました。

※ プロバイオティクス：十分量を摂取したときに宿主に有益な効果を与える生きた微生物(FAO/WHOによる定義。2002)のこと

ベトナム保健省
国立栄養研究所との
共同研究

ベトナム保健省国立栄養研究所との共同研究では、ベトナムの幼児を対象に「乳酸菌 シロタ株」を含む乳製品の継続飲用により、便秘および急性呼吸器感染症の発生抑制、下痢の発生が抑制される傾向を確認しました。この結果については、学術雑誌 *European Journal of Clinical Nutrition* (2020年9月28日掲載)に報告されています。



健康課題の解決に向けた研究活動に積極的に取り組んでいるよ。

ヤクルトグループのマテリアリティ

地域社会との共生



ヤクルトのアプローチ

ヤクルトグループは、「人も地球も健康に」のコーポレートスローガンのもと、地域と共生し、環境と調和しながら事業活動を継続することが重要だと認識しています。ヤクルトレディによる商品のお届けという独自の地域ネットワークも活かし、「安全・安心」な地域づくりに積極的に参加し、持続可能な社会の実現に向けて地域社会の発展に貢献していきます。

地域社会の発展に
貢献するよ!



貢献するSDGs



出前授業、健康教室

ヤクルトの社員が小学校等に出向き、腸の大切さや「いいんち」を出すための生活習慣について、わかりやすく説明する「出前授業」を行っています。大人向けには幅広いテーマで「健康教室」を開催しています。また、非対面・非接触でも健康情報の発信を継続するため、オンラインでの健康教室、出前授業の導入を予定しています。



出前授業（日本）

地域の見守り・防犯協力活動

ヤクルトレディは、担当地域に商品をお届けしながら、全国925の自治体、警察などと連携して地域の「見守り」や「安全・安心」への手伝いをしています。

また自動販売機では、自治体と協定を締結し、災害時に飲料を無料提供できる災害救援型自動販売機や、監視カメラ機能がついた自動販売機の設置で、地域の「安全・安心」に貢献しています。

群馬県高崎市設置の
災害救援型自動販売機

「安全・安心」な地域づくりに
積極的に参加してるよ!

高齢者の貧困に対する支援

ドイツヤクルトは、2020年2月から、デュッセルドルフの貧困に苦しむ高齢者をケアする地域コミュニティ「ヘルツヴェルグ」を支援しています。高齢者に配られる健康的な朝食の準備とスポンサーを務め、また、デジタルのクリスマスカード1枚送付につき、1ユーロを「ヘルツヴェルグ」に寄付しました。その寄付金は、イースターの高齢者向けプレゼントに使われました。



高齢者への
プレゼント
(ドイツヤクルト)



ヤクルトグループのマテリアリティ

サプライチェーンマネジメント

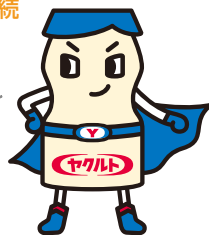


ヤクルトのアプローチ

ヤクルトにとってCSR調達の推進は、経営理念を実現するための重要課題です。「ヤクルトグループ CSR調達方針」のもと、サプライヤーの皆さまにヤクルトのCSR調達の考え方をより具体的にご理解いただくため目指す姿を明確化し、積極的なコミュニケーションを図ります。

環境・社会に与える影響への配慮やリスクの軽減によりサプライチェーン全体で社会の持続可能性を高めます。

サプライチェーン
全体で取り組むよ!



貢献するSDGs

サプライヤーとともに
推進するCSR調達

ヤクルトグループは、サプライヤーと連携・協力しながらサプライチェーン全体でCSR調達を推進しています。2020年7月に「ヤクルトグループ サプライヤーCSRガイドライン」を策定。2020年度も、アンケートや監査等を通じて取り組み状況を確認させていただき、問題が確認された際には改善に向け適切な対応を行い、社会の持続可能性を高めていくことを目指します。

現地で雇用・現地で調達し、
地域の発展に貢献します

ヤクルトは、事業を行う国や地域の持続可能な発展に貢献するために、当社の定める品質や安全性の基準をクリアし、安定的に調達できるものを使って現地で生産・販売する「現地主義」でグローバル事業を展開しています。

現在、海外29の事業所を中心に、日本を含む40の国と地域で事業を展開、地域に根差した生産・販売の拠点として事業所や工場を設け、現地社員を積極的に採用しています。

「現地主義」で
グローバル事業を展開!



CSR調達の基本方針

ヤクルトグループ CSR調達方針 (2018年3月策定)

ヤクルトグループは、人権、労働、環境、腐敗防止などにも配慮するCSR調達の重要性を認識し、取引先と連携・協力しながらサプライチェーン全体でCSR調達を推進します。

1 法令遵守と国際行動規範の尊重

各国・地域の法令遵守はもとより、国際行動規範を尊重し、公正・公平な調達活動を推進します。

2 人権・労働・安全衛生への配慮

児童労働・強制労働の排除および基本的人権を尊重し、労働環境や安全衛生に配慮した調達活動を推進します。

3 安全・安心と品質の確保

コスト・安定供給はもとより高い品質と安全性の確保をめざした調達活動を推進します。

4 地球環境への配慮

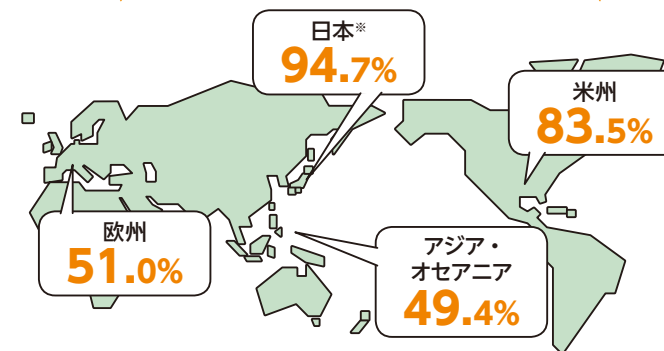
「ヤクルト環境基本方針」に準拠し、地球環境に配慮した調達活動を推進します。

5 情報セキュリティの保持

調達取引に関わる機密情報は厳重に管理し正当な目的以外に使用しません。

6 社会との共生

社会との共生に向けた社会貢献への取り組みに配慮した調達活動を推進します。

原材料の地元調達比率
(2020年度乳製品原材料における実績)

※ 海外から輸入し国内で最終加工している原材料は、国内調達として集計